

311 東日本大震災復興支援
チャリティーコンサート Vol.14
～届け!いのちの声～



映画「ただいま、つなかん」の舞台となった【民宿つなかん】

311 東日本大震災復興支援チャリティーコンサートは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地復興を目的とした慈善イベントです。収益は、岩手・宮城・福島三県の子ども基金に送られ、復興支援活動や被災者支援に寄付されます。14年目の今年は、被災地、宮城県気仙沼唐桑(からくわ)を舞台に復興を見つめ続けたドキュメンタリー映画「ただいま、つなかん」を上映。加えて、この映画の監督・風間研一氏と学生ボランティアとして19歳で参加した根岸えまさんをお招きし、未曾有の災害に直面し復興していく過程に寄り添って歩んだお二人の思いをお話しいたできます。

2025年 **3** 月 **2** 日(日)午後 1 時開演(12時30分開場)

蕨市立文化ホールくるる(JR蕨駅西口徒歩4分)タワーマンション隣

チャリティーチケット:3,000円(映画観賞券含む) 全席自由

(※収益は岩手・宮城・福島3県の子ども基金に寄付致します)

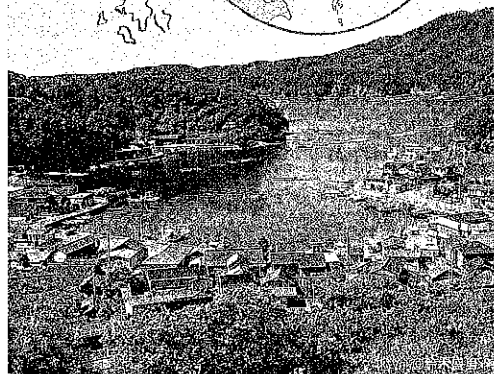
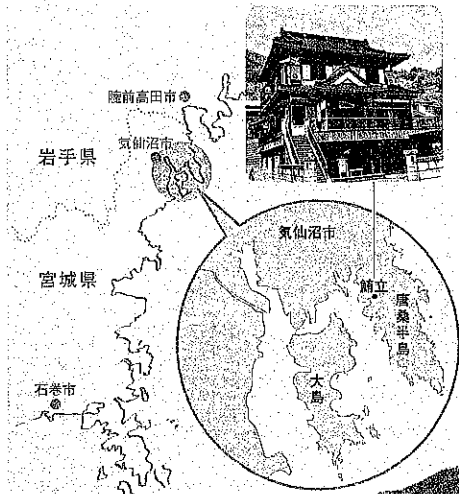
主催:311 支援チャリティーコンサート実行委員会(070-6645-0501)

共催:蕨市立文化ホールくるる(048-446-8311)・季節に唄う会

震災によって生まれた「絆」のその先には 誰かが誰かを思う気持ちが溢れていました

宮城県気仙沼市唐桑半島 鮎立。美しい入江を見下ろす高台に
民宿「唐桑御殿つなかん」はあります。

100年続く牡蠣の養殖業を営む菅野和享さんと一代さん夫妻は、
東日本大震災当時、津波により浸水した自宅を補修し、学生ボランティアの拠点として開放、
半年間で延べ500人を受け入れてきました。若者たちに「つなかん」と呼ばれたその場所は夫妻
の「皆がいつでも帰ってこられるように」との思いから、2013年の秋に民宿に生まれ変わります。
女将となった一代さんは、自慢の牡蠣やワカメを振る舞い、土地の魅力を自ら発信。そんな「つな
かん」に引き寄せられるかのように、次々とこの地に移り住む元ボランティアの若者たち。彼らは
海を豊かにする森を育てたり、漁師のための早朝食堂を営んだり、移住者のサポート体制を整え
たりと、地域に根ざしたまちづくりに取り組み始めます。復興のその先を見つめる一代さんと若者
たち。そんなある日、海難事故が発生。養殖業を廃業し、閉じこもりがちになった一代さんを思い、
全国各地から「つなかん」に集まってくる元ボランティアや仲間たち。涙なみだの時を経て、民宿
は再開。いつしか若き移住者たちは新しい命を授かり、地域を担う立場となっていきます。そして、
コロナ禍による民宿存続の危機の中で迎えた2021年3月11日。震災から10年という節目を機
に、一代さんは大きな一歩を踏み出そうとしていました。



民宿
唐桑御殿
つなかん
とは



唐桑のシンボルでもある大きな人母屋造の唐桑御殿。遠洋マグロ漁
が盛期の頃、漁師たちは戻らぬ立派な家を立てた。東日本大
震災当時、菅野夫妻が開放した唐桑御殿の自宅を、学生ボランテ
アたちは親しみを込めて「つなかん」と呼ぶ。民宿となった当日、全国
から多くの人々が訪れている。2023年、民宿開業10周年を迎える。



「つなかん」で積み重ねられる年月を10年以上にわたり記録したのは、当時テレ
ビ報道の現場にいた現役ディレクターの風間研一（本作初監督）。語りを菅野
夫妻と親交があり、現在も気仙沼に通い続ける俳優の渡辺謙が担当し、音楽を
気仙沼出身・仙台在住で、みなと気仙沼大使も務めるジャズピアニスト・岡本
優子が書き下ろした。また、糸井重里や伊達みきお（サンドウィッチマン）など、つ
なかんや気仙沼にゆかりの深い人々も登場する。全国ニュースで放送され多く
の反響を呼んだ一代さんの物語に新たなシーンを加えた待望の映画化。

ただいま、つなかん



語り：渡辺 謙

監督：風間研一 | 音楽：岡本優子



ゼネラルプロデューサー：齋藤隆平 | プロデューサー：柴崎木綿子 | 編集：井上秀明
配給宣伝協力：ウッキー・プロダクション | 宣伝協力：リガード | 製作著作：文化工房
2023年 | 115分 | 16:9 | カラー | DCP | 日本 | ドキュメンタリー ©2023 bunkakobo

文化工房 (G) (映倫)



映画の最新情報は ▶▶ <https://tuna-kan.com> tuna.kan2023 tuna_kan_movie tuna.kan.movie @tuna_kan_movie